

寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

(匿名希望を除く。50音順、2023年11月末現在)

この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

川合 祥文 様

一般社団法人生産技術振興協会

編集委員のページ



藤井 まい

元WHO職員、元アジア欧州財団 (ASEF) 副ダイレクター
WHO勤務8年で5部門を担当。ASEF(国際機関)でのCOVID19対策、ウクライナ難民への医療物資支援を終え、現在は福島県二本松市保健師。

世界の全人口を実数で把握できる日は来るのかな？

WHOでの8年間の勤務で私が最も興味を持ったことに「死亡登録」があります。世界では妊産婦や乳幼児死亡のための多くの取り組みがあり、それに伴って「出生届を出す」ことは世界でも常識になりつつあります。しかし、「家族が亡くなったら役所に届出る」概念の普及は大きく遅れ、未だ世界の3分の2の死亡記録がない事実は私には衝撃です。世界人口や死因の把握は、この3分の1の貴重な現存情報と推計を駆使して作られています。死亡届がない、つまり記録がなく亡くなる方々は、この世に生きた証を残せず残念！という次元を超えて人口や死因を正確にできない大きな要因なのです。

近年、低中所得国では誰かが亡くなったという知らせを受けると、お役人が国際支援などで頂いたタブレット持参で村まで出向き、死亡までの状況を聞き取る取り組みが始まっています。口頭剖検 (Verbal Autopsy, VA) と呼ばれています。回答次第で次画面を自動誘導できるアプリもあり、その地域文化に合わせ開放的なスペースで聴き取ることもあります。

日本はこの「出生と死亡届け出制度」については先進国でも優等生中の優等生です。地理的優位性や国民の性質、経済状況、歴史的な着手時期の早さが相まっての達成かと思いますが、今後日本の良さも世界に伝えつつ、世界の取り組みも日本に紹介していきたいです。

口頭剖検 (Verbal Autopsy, VA) のイメージ図 (作: Azusa Fujii)



世界保健デー 2024 記念イベントのお知らせ

毎年4月7日は世界保健デーです。2023年のテーマは「Health For All (すべての人に健康を!)」、そして、2023年はWHOが発足して75周年のアニバーサリーイヤーでした。

日本WHO協会では、2024年4月7日に記念イベントを開催する予定です。詳細は、当協会のホームページで随時お知らせしますので、皆様ぜひご参加ください。

